

学生に尋ねた
授業・学生サポートの
オンライン活用状況
アンケート調査
結果レポート

2021年9月

株式会社ディスコ
教育広報事業部

学生に尋ねた 授業・学生サポートのオンライン活用状況

就職・進学情報を提供する（株）ディスコでは、学生に2020年度以降のオンライン授業受講状況およびオンライン学生サポートの利用状況についてアンケートを行いました。

【調査概要】

実査期間：2021年4月27日～2021年5月10日

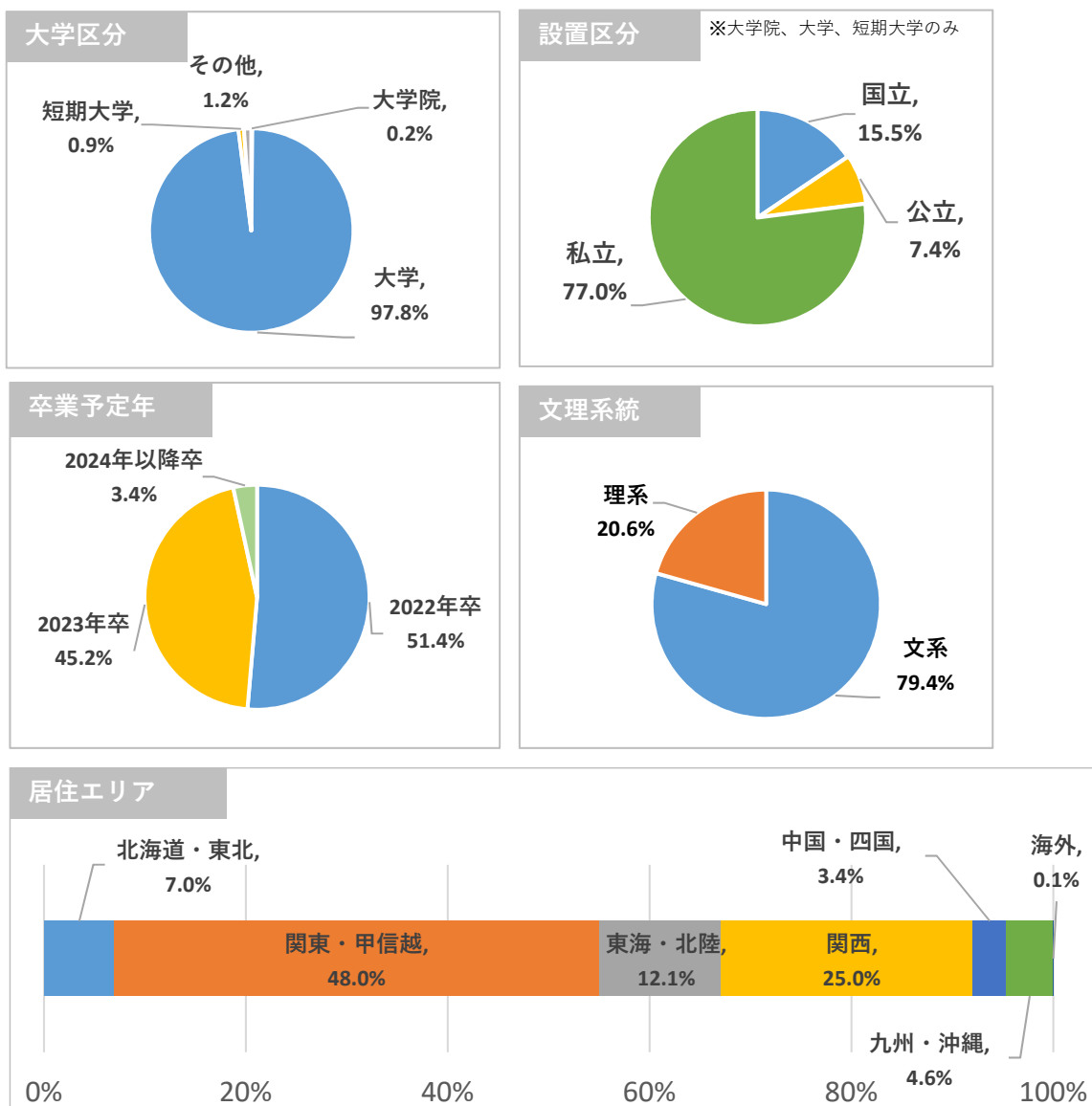
調査方法：インターネット調査

対象者：キャリアタス就活LINE公式アカウントユーザー

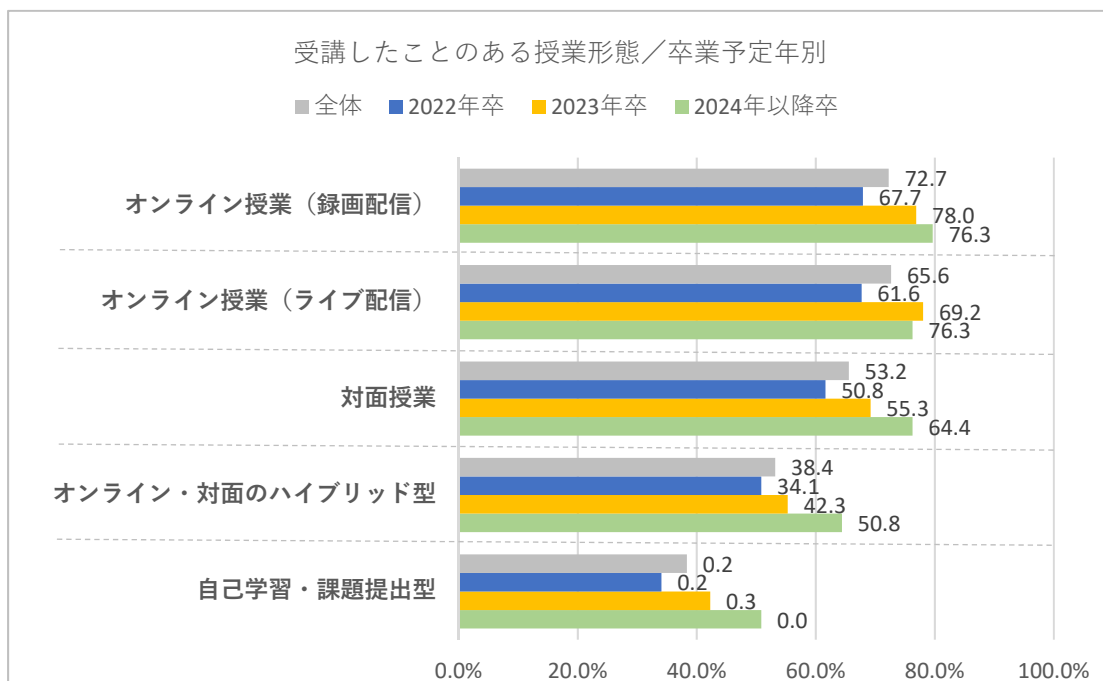
有効回答数：1,731名

調査機関：（株）ディスコ 教育広報事業部

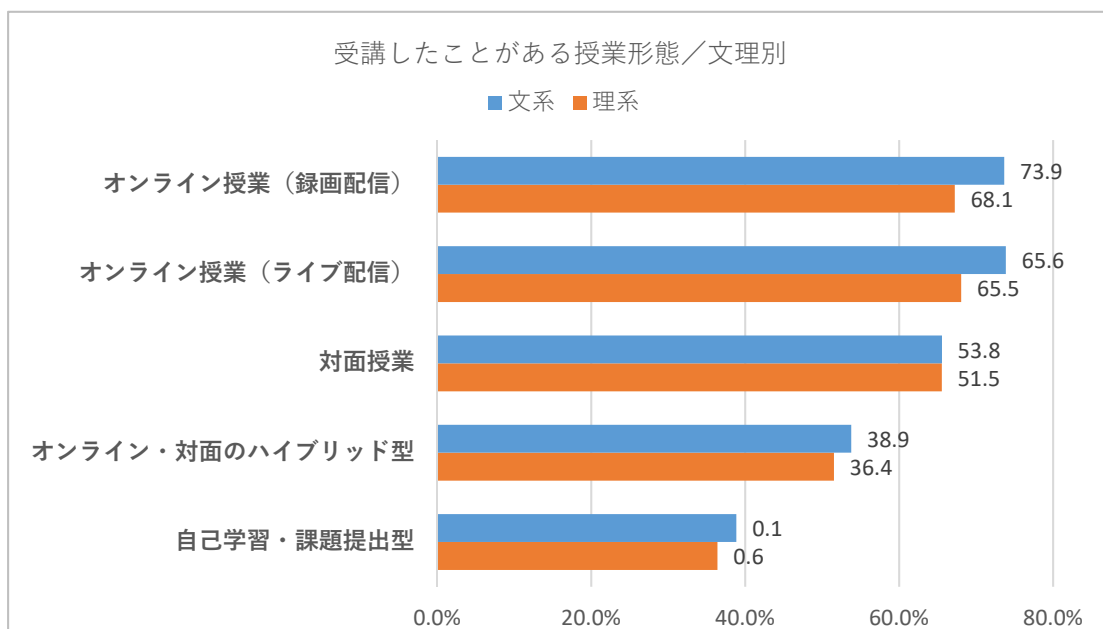
【回答者の属性】



【1】2020年度以降で受講したことがある授業形態



2020年度以降に大学で受講したことがある授業形態は、卒業予定年が先のグループほど各項目の割合が高い。卒業予定年が近いグループよりも履修する授業数が多いため、様々な授業形態を受講している。



対面授業では、文系・理系ともほぼ同割合であったが、オンライン授業（録画配信／ライブ配信）では比較的文系の割合が高い。

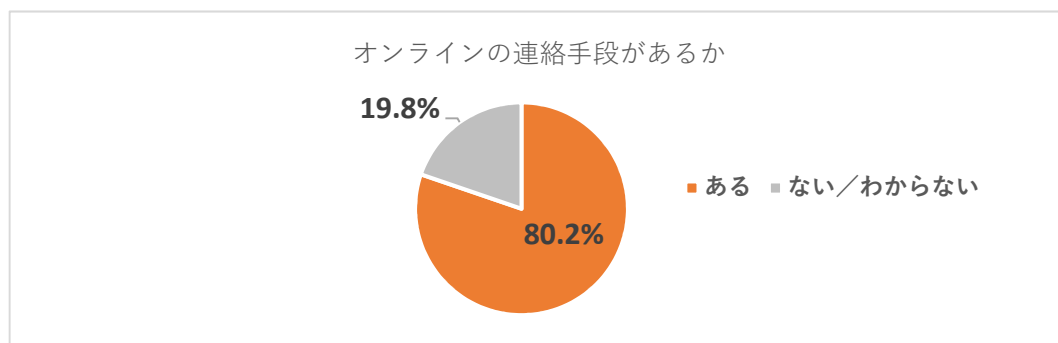
【2】オンライン授業の良かったと思うところ・良くなかったと思うところ
(自由回答・抜粋)

良かった点
・感染面の不安がなく授業に取り組めたのはとてもよかった。(文系・2022年卒)
・時間をあまり気にしなくていいこと、出席率が上がった。(文系・2022年卒)
・家から大学まで遠いので、交通費と通学時間の節約ができたのがメリット。 (文系・2022年卒)
・オンラインは今後の社会でも需要があるので必要だと思いました。(理系・2023年卒)
・質問やグループワークもしやすいので便利。ICT技術が上がった。(文系・2023年卒)
・対面授業ではレポート課題やプレゼンテーションを提出する機会が少なかったため、オンラインになってレポートの書き方やPowerPointの使い方をしっかりと学ぶことが出来た。 (文系・2023年卒)
・オンラインだと語学の発音、先生の口の形などがよくわかり、また先生からのアドバイスも的確だった。(文系・2022年卒)
・録画配信は授業内容がわからなくなっても後から見返せる点が高く、成績が上がった。 (理系・2022年卒)
・語学の授業は、何度も発音や説明を聞き直せるオンデマンド型配信がいいと思いました。他の授業についても何度も説明を聞き直せたり、課題が課されていたりすると自己学習時間が増えるため、オンライン授業には大賛成です。(文系・2023年卒)
・オンラインだと、教室のように騒がしかったり、積極的な人しか意見を言わないなどが無い。 (文系・2023年卒)
・緊急事態宣言が出たとき中国にいて日本に帰ってこれなかった留学生も参加できた。 (文系・2022年卒)
・オンライン授業になりすぐにパソコン等で知識を調べられるようになったことで、試験が単なる知識を得ているかの確認ではなく、得た知識をどのように解釈するか、活用するかという内容となったことは非常に面白いと感じた。(文系・2023年卒)
・チャットやグループアウトセッションでの会話によって、他学科の方とも気軽に話し合いが行えた点がある。(文系・2022年卒)
・録画型は再生速度が調節出来る・理解出来るまで見られるなど自分に合わせた学習が可能な点が良いと感じた。(文系・2022年卒)

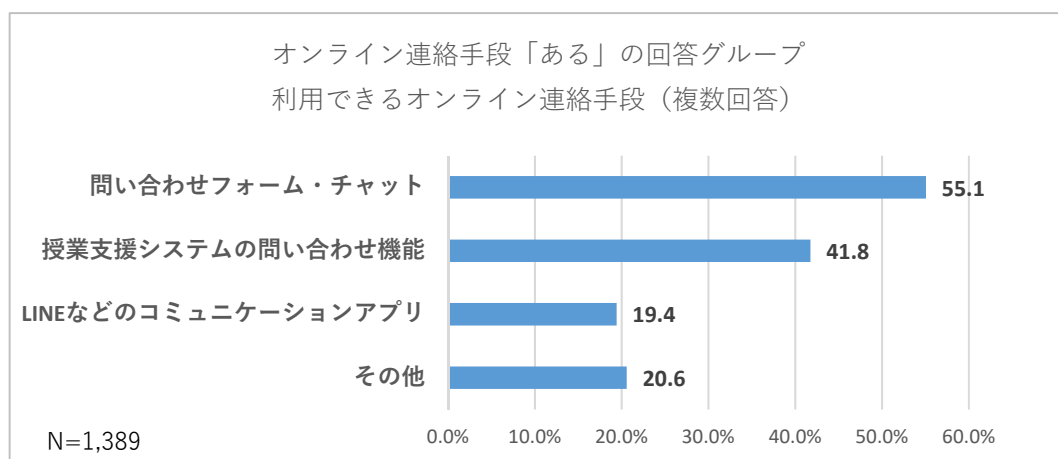
【2】オンライン授業の良かったと思うところ・良くなかったと思うところ
(自由回答・抜粋)

良くなかった点
・実習がオンラインとなると、実際に自分で作業ができないので身に付かない。いつもより明らかに短い授業が増えた。(理系・2022年卒)
・対面と比較して、出席確認のためのレポートが多く、評価対象になる提出物が多く大変だった。(文系・2022年卒)
・英語など、コミュニケーションが必要な科目はオンラインだと、やりにくい。(文系・2022年卒)
・講義内容に疑問がでてきても、その日のうちに解決してもらえる事は少なく、また、フィードバックも少なくなっただと感じている。(文系・2023年卒)
・講師がシステムに慣れていなかったり、回線が遅く映像や音声が遅延するなど落ち着いて授業を受けられる状況ではないことがままあったので、あまり良い形式ではないと感じた。(文系・2022年卒)
・オンラインばかりだとやはり心理的に孤立しやすいように思う。(文系・2022年卒)
・先生によって、使用するツール(zoom、google meet、google classroom、google drive、YouTube、メール等)が、違ったため覚えるのが大変だった。(文系・2022年卒)
・本来、体験を通して学ぶはずであった実技が、自宅でもできる簡易的なものに代替されてしまったこと。(文系・2022年卒)
・ライブ配信でもいいが、それをアーカイブで残して欲しい。(文系・2023年卒)
・オンデマンド型は好きなタイミングに受講できる反面、受講し忘れてしまうことで成績が危うくなることがありました。(文系・2022年卒)
・課題の量が多く就職活動との両立が大変であった。(文系・2022年卒)
・ライブ配信の授業は講義の時間に参加する必要があるが、人数が数十人にもなればリアルタイムの利点である双方向でのやり取りなどできないし、ただ聞いているだけの状態になるので「リアルタイムでやる必要あるの?」と思ってしまう。(文系・2023年卒)
・録画配信の悪かった点としては、授業が一方通行になりやすい点があった。(文系・2023年卒)
・実技の授業は90分以内の動画配信では物足りない。対面ですることの意味があるものもある。(文系・2023年卒)
・オンライン化したことで、課題の数が急増した。(文系・2022年卒)
・オンラインで基本的にビデオはオンだったが、質問に答えられないと寝てたのか、と言われたり、下を向いていると聞いてない、と注意されたりなど先生方から常に監視されているような感覚であり快適だとは思えなかった。(理系・2022年卒)
・オンラインでも学費が減額されないことや、実家に帰っている間、借りている部屋の家賃も払いっぱなしになってしまい、もったいないことになった。(文系・2023年卒)
・対面授業の後にオンライン授業があると、移動しながら携帯でオンライン授業を受けないといけないから不便でした。(文系・2023年卒)
・対面授業もオンライン授業も混在しているため大学でオンライン受講をする人が多く、結局密状態になってしまっている点。(文系・2023年卒)

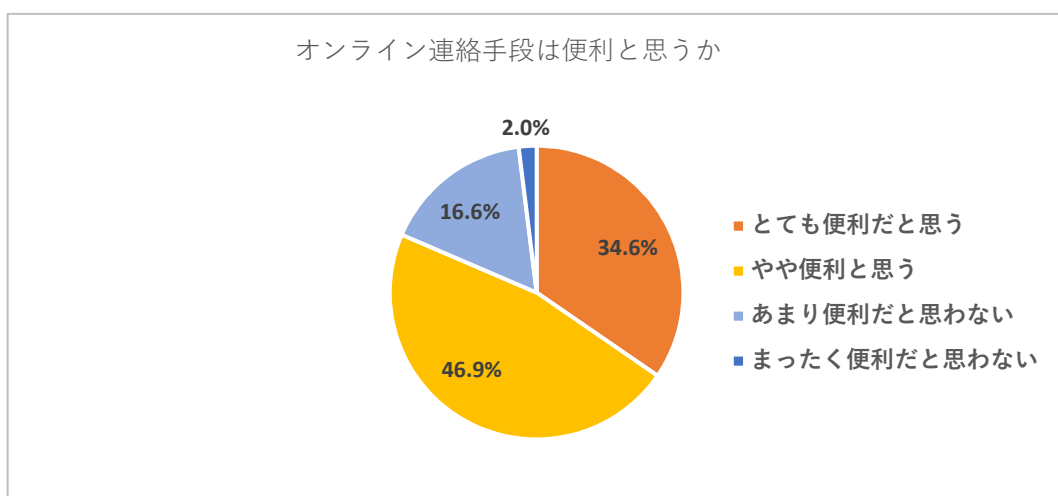
【3】 大学窓口・教職員とのオンライン連絡手段について



大学窓口・教職員とのオンライン連絡手段は、全体の8割が「ある」と回答。



オンライン連絡手段としては、「問い合わせフォーム・チャット」（55.1%）が最も高い。「その他」（20.6%）の内容では、「Eメール」「電話」が多数挙げられた。



オンライン連絡手段が「ある」と回答したグループは、オンライン連絡手段について「とても便利だと思う」「やや便利と思う」の合計が8割を超えている。

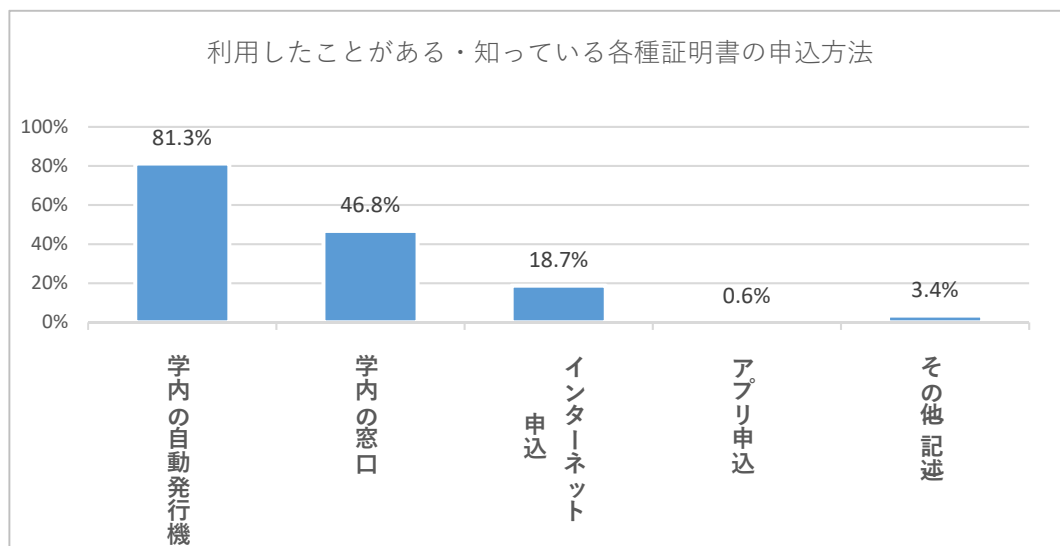
【4】オンラインの連絡手段について良かった点・良くなかった点 (自由回答・抜粋)

良かった点
感染リスクを気にせずに相談できるから。 (問い合わせフォーム・チャット)
窓口に行くよりも気軽に連絡・相談ができるから。 (LINEなどのコミュニケーションアプリ／授業支援システムの問い合わせ機能／問い合わせフォーム・チャット)
AIチャットはわざわざ聞きづらいようなちょっとしたことでも調べられるのは良い。 (授業支援システムの問い合わせ機能／問い合わせフォーム・チャット)
直接会えないため、質問できるツールがないと非常に不便だと思う。 (LINEなどのコミュニケーションアプリ／授業支援システムの問い合わせ機能／問い合わせフォーム・チャット)
SNSが普及しているおかげで、教授もLINEを交換してくれる人が増えた。素早くやり取りできるので助かっている。 (問い合わせフォーム・チャット／LINEなどのコミュニケーションアプリ／授業支援システムの問い合わせ機能)

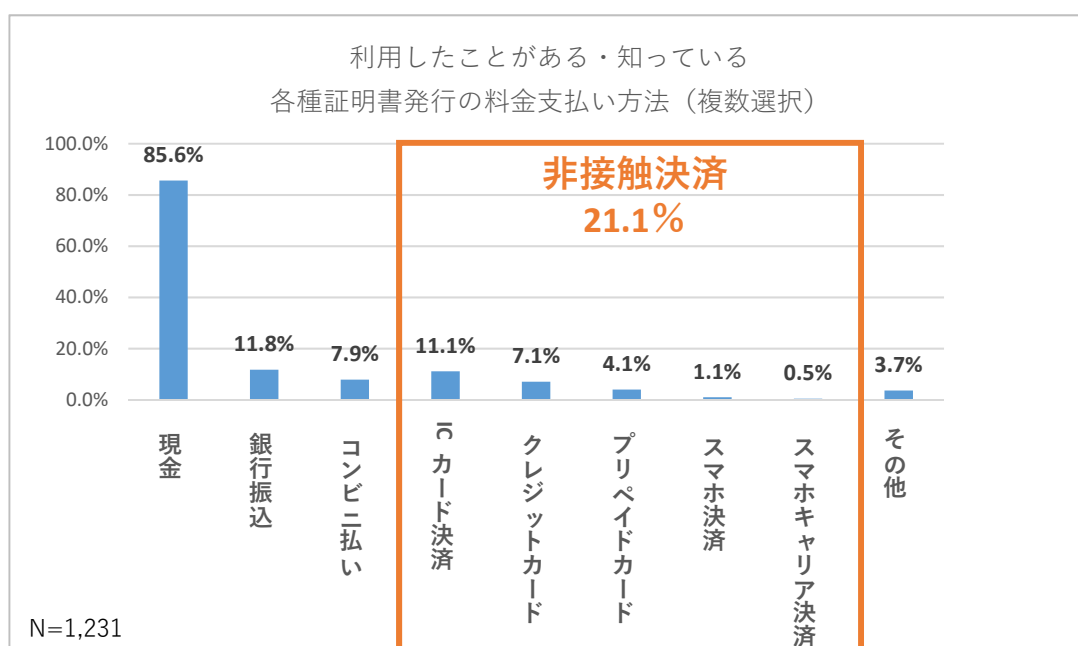
良くなかった点
チャットのマナーを「メールと同じ」とする先生と「会話と同じ」とする先生がいるため、連絡の仕方がわかりにくい。 (問い合わせフォーム・チャット／LINEなどのコミュニケーションアプリ)
対面で喋らないことで聞きやすい部分もあるが対面じゃないと聞けないこともあると思う。 (問い合わせフォーム・チャット)
連絡を取れるのは良いが、教授にメールをするのは対面で質問するよりもハードルが高く感じる。 (授業支援システムの問い合わせ機能)
返信が遅い。要求と返信の間に誤謬がある。 (問い合わせフォーム・チャット)
自分の相談がどの窓口で受け付けるものなのか分かりづらい。 (問い合わせフォーム・チャット)
他の学生に相談内容が見られることが困る。 (授業支援システムの問い合わせ機能)
1回の連絡に全ての聞きたいことを書き込むことが難しい。 (問い合わせフォーム・チャット)

※カッコ内は、利用できるオンライン連絡手段として回答した項目。

【5】学割や卒業証明書等の各種証明書の申込方法・支払い方法について



利用したことがある・知っている各種証明書の申込方法は、「校内の自動発行機」(81.3%)が最も高い。「その他(記述)」の内容としては、「郵送申込」「コンビニ発行」「メール申請」などが挙げられた。

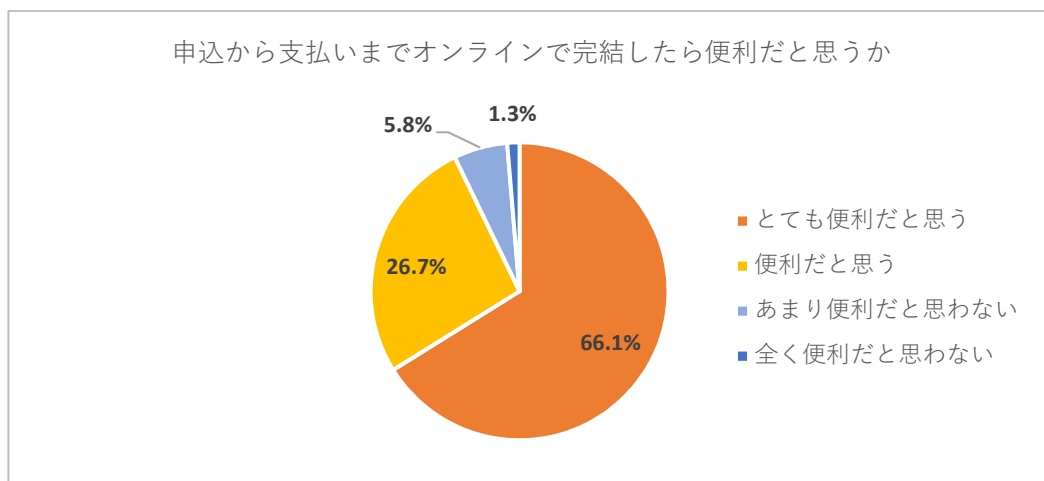


*「支払いをしたことがない」回答者を除く

*スマホ決済は「スマホ決済(QR決済・アプリ決済)」で聴取、スマホキャリア決済は「スマホキャリア決済(ドコモ払い、auかんたん払いなど)」で聴取。

学内の「各種証明書発行の料金支払い方法」では、「現金」(85.6%)が突出して高い。非接触決済は1割以下がほとんどで、とりわけスマホ決済・スマホキャリア決済は低い。「その他」には定額小為替、切手、PayPalなどが挙げられた。

【5】学割や卒業証明書等の各種証明書の申込方法・支払い方法について



「各種証明書の申込から支払いまでオンラインしたら便利だと思うか」を尋ねたところ、「とても便利だと思う」「便利だと思う」の合計が**92.8%**と高く、各種証明書発行がオンラインで完結する仕組みは、学生に好意的にとらえられているようだ。